

総合特別区域の進捗に係る評価
〔国際戦略総合特区〕

令和2年度

京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成24年3月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4+4)/2=4

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	特区事業の実施によるライフィノベーション分野における経済効果	15% (※)	3 (※)
2	個別化・予防医療及び未病改善などを実現するためのデータサイエンスの活用等に取り組む事業数	129%	5
3	医薬品・医療機器・再生医療等製品等の早期実用化に向けた取組件数	68%	3
4	新たに展開された商品・サービスの創出件数	150%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

(5×2+4×0+3×2+2×0+1×0)÷4=4

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標1は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

(※) 上記1番目の評価指標の進捗度及び評点については、当該指標が定める複数の数値目標の進捗度及び評点をそれぞれ寄与度を踏まえ平均した値を記載しているため、進捗度60%以上80%未満を3とする評点の取扱いと一致しない記載となっている。

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (2+2.3+4)/3=2.8

2.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

- ・数値目標的には、概ね高い達成率を得ていると思われる。
- ・進捗としては概ね良好と判断されるが、規制緩和などの項目に関して従来から進展がないように見られる。また、地元独自の支援ももう少し活発に行った方がよいように思われる。
- ・投資額、データサイエンス事業数等の進捗が高い中で、就業者、研修者の増加が限定的なのは新型コロナの影響とも考えられるが、追加的な説明、今後に向けた準備的対応について説明を期待する。
- ・医薬品・医療機器・再生医療機器製品等の新規開発件数において、目標値が平成29年度から令和3年度において増加目標があるように見受けられるが、実績については、その目標を上回っている。この背景について目標値設定の妥当性も含めて研究者側の事情を聞いてみたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4+2.8+4 \times 2) \div 4=3.7$

3.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。